

3市の児童が楽しく交流

ふるさと豆記者交流事業

7月26日(木)、富岸小学校で、姉妹都市小中学校交流事業『ふるさと豆記者交流事業』（姉妹都市小中学校交流事業実行委員会主催）を行いました。

この事業は、登別市と姉妹都市である宮城県白石市・神奈川県海老名市の小学生が隔年で登別市・白石市を訪問し、地域の子どもたちとの交流を通じて、互いのまちについて理解を深めることを目的としています。

今年、白石市から6人、海老名市から4人の小学生が『豆記者』となって登別市を訪問。3市の子どもたちがそれぞれのまちや学校の特色などを紹介し合い、校内見学を通して交流を深めた後、白石市と海老名市の児童は、郷土資料館や登別地獄谷の見学などを行い、登別市について学びました。

7/26



▲校内に置かれたヒグマのはくせいを紹介する富岸小学校の子どもたち

楽しく仲良くおいしく調理

登別市民憲章制定50周年記念

食育おやこ料理教室『登別牛カレーを作ろう』

7/27・28

7月27日(金)・28日(土)、しんた21で開催した登別市民憲章制定50周年記念食育おやこ料理教室『登別牛カレーを作ろう』（市・登別市食生活改善推進協議会主催）で、市内の小学生とその保護者など61人が登別市の市章を模して盛り付けた登別牛カレーなどを作り、味わいました。

親子で一緒に調理を行いながら、栄養バランスや調理する楽しさを学ぶことを目的としたこの催しは、登別牛やエゾシカ肉など、市内の畜産物を使用して地産地消の大切さも学びます。

姉妹で参加した五十嵐友梨さん（小学5年生）と友菜さん（小学3年生）は、以前にも参加したことがあるといい、「楽しかったので、家でまた作りたいです」と完成した料理を見せてくれました。



▲お母さんに教えてもらいながら、慎重に包丁を扱う子どもたち

夏にぴったり 流しそうめん

鷺別地区放課後子ども教室（ひなわしメート）

『流しソーメン』

8/1

8月1日(水)、鷺別小学校で『流しソーメン』（同教室実行委員会主催）が行われ、地域の子どもたち約90人が参加しました。

この取り組みは、ひなわしメートや児童クラブを利用する子どもたち同士と、地域ボランティア、先生などが相互に交流を図ることを目的として、平成21年から行われています。汗が噴き出す暑さの中、地域の方によって、そうめんのほかミニトマトなどが流され、子どもたちは大喜びでした。参加した鷺別小学校6年生の矢野菜々恵さんは「暑かったので、冷たいそうめんがおいしかった」と話してくれました。



▲そうめんを一生懸命すくい取る子どもたち

のぞいた先には鮮やかな世界

夏休み工作教室

7月26日(木)・27日(金)、郷土資料館を会場に開催した『夏休み工作教室』（市教育委員会主催）で、8人の子どもたちが自分だけの万華鏡やスクリーン船、風車を作りました。

毎年、夏休みの期間中に行われているこの催しは、郷土資料館ボランティアグループ『SLG』のメンバーからサポートを受けながら、万華鏡などを子どもたち自らの手で製作する教室です。

お母さんと一緒に万華鏡づくりに参加した幌別西小学校1年生の山田駿介さんは、「楽しく作ることができました。キラキラしてきれい」と完成した万華鏡を何度ものぞいていました。

7/26・27



▲万華鏡にいれるさまざまな色や形のビーズなどを選ぶ子どもたち

